

(様式1)

# 平成27年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立小寺小学校  
校長：前田 由紀子

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の力を伸ばすに向け	一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。	授業時数の確保はしっかりできた。学力・学習状況調査を見る限り、一定の成果はあるが、個人差も大きく全ての児童に効果がある取り組みを考えていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は神戸市小学校教育研究会国語部の研究総会会場となり、職員研修の中心として位置づけ研鑽をつむことができた。多くの学年で、並行読書に取り組み、子供たちにとっても良い学びとなった。しかしながら、研究はスタート地点についたばかりでもあり、来年度さらに発展させていきたい。そのことと連動して、朝の読書タイムの進め方、また読書環境の整備も進める。</li> <li>各学年に配慮を要する児童が在籍しているので、引き続き外部の指導も仰ぎながら、取り組んでいきたい。また、学級集団としての育ちにも配慮していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に意見は出なかった。本校は市民図書室が併設されているので、休日でも親子で学校を訪れ読書に親しんでいる家庭も多い。</li> </ul>
	確かな学力の育成読書活動を推進し、継続的な読解力の蓄積をはかる。	「おはようタイム」の中心として読書があり、蔵書数の多さ、市民図書室の存在もあって読解力は育っている。それを表現力につなげ、各教科の学習をより充実させていくかがさらに大きな目標である。	B		
	配慮を要する児童に対し学習や行動の支援充実を図る。	夏季に外部講師を招いて職員研修を行った。また、学びの支援センターからも助言を受けていて、引き続き連携を密にしていきたい。	B		
実教力職を員磨・き学校校の魅力と	1学期の運動会、2学期の音楽会。魅力ある学校行事を創る。	運動会が1学期に移行して2年目になり落ち着いて取り組めた。2学期は自然学校、小寺まつり、修学旅行、音楽会と立て続けに行事が集中し、慌ただしい学年もあった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年のことながら、行事での子どもたちは大きく育っている。それは個々の成長に限らず、「仲間づくり」にもつながっている。「達成感を味わう」その伝統を今後も守り続けたい</li> <li>創立30年を過ぎ、校舎は至る所で痛みや汚れが目立つようになってきている。環境の悪化の放置は、安全面もさることながら、心の成長に影響することもあり、「物を大切に作る心」は意識させたい。</li> <li>先行導入された「学習支援ツール」は十分に活用できなかった。次年度はカリキュラムの位置づけ考えて有効利用を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事を見る度にそれを支える教員の苦勞が想像される。教師の多忙化と共に、子供たちの生活にもゆとりがなくなっているのでは。ゆとりがなくなること、学校生活のさまざまな面で悪影響も出てくる。ゆとりを生み出すために、何かをやめるような英断も必要なのではないかな。</li> </ul>
	安心安全な学校生活をおくることができる環境作りに努める。	空調工事が完了し、快適に過ごせるようになった。但し、本校は教室環境の差が著しく、教室によって温度設定にムラがあるのが難点。体育館には保護者と連携し、大型ストーブが整備できた。	B		
	ホームページ等を活用した学校情報の積極的な発信に努める。	職員研修としてホームページ研修を行った。取組状況をグラフ化し、職員室内で競うことにより、活性化された。先行導入した校務支援システムも何とか活用できた。	B		
更に発展させる神戸の教育を	生きる力の基礎となる「言葉の力」の充実	言語環境の基礎となっているものがあいさつである。今年度は6年生によるあいさつ運動の他「YMCA保育園」「学園幼稚園」と連携し、幼保小でスローガンを掲げた。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き地域と連携していくことで、校外校内を問わず、言葉による「心の健全育成」進めていきたい。それと共に「あいさつ」以外での言葉の表現力の向上を図る。</li> <li>東日本大震災、福島原発問題、その他毎年のように各地で災害が発生している。それらを身近に感じ、助け合う心を大切に、引き続き防災教育を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の見守りをしていて、気持ちのよい「あいさつ」ができるのが、小寺の子どものよいところである。年月が経つにつれて、だれてくることもあるので、見守り位置を交代するなどして刺激した。見守り隊の方々の名前を覚えてもらうことで、さらに心のつながりも深めたい。</li> </ul>
	震災21年目からの防災教育を推進する。	震災追悼集会で、長田区で当時高校生だった教員が自分の体験を語った。生の声ということもあり、子供たちも真剣に聞いていた。また、今年は神戸市シェイクアウト訓練と連動しての訓練も実施した。	B		
市民が自ら学び子供に支える	ゲストティーチャーをはじめとする外部人材の積極的な活用を図る。	「交流田活動」「しめなわ作り」「昔の遊び」「昔のくらし」と多くの行事で、地域の老人会のご尽力をいただいた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の老人会である「学園長寿会」は大きな財産である。今後とも連携を深めつつ、しっかり感謝の意も伝えていく。</li> <li>4つの大学に囲まれている地域性を最大限に生かし、今後とも連携を深めていく。また幼稚園、保育園との連携も1年生以外も視野に入れて進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から、神戸市指定で「豊かな心育成連携プログラム事業」が始まった。幼児の時にしっかり遊ぶことで心の育成につながり、そしてスムーズに小学校につなげていければと考える。今年は「昔遊び」で幼稚園・保育園と交流することで、1年生が成長できたように感じた。</li> </ul>
	行政機関、大学等、地域施設との連携を深める	例年実施している看護大学、児童館、西区役所との連携の「命の感動体験」の他、今年度幼稚園・保育園を小寺まつりや昔の遊びに招待し交流が深まった。	A		